



2023年度年末手当に関する申し入れ第3回交渉 その②

私たちの声を本当に受け止めている回答なのか！？

【組合】2.6ヶ月+5万円は2.8ヶ月程度だと思うが、先が見えなかった東日本大震災の影響下にあった2011年は2.78ヶ月、今より社員数が約3万8千人多かったJR発足から3年間で2.8ヶ月と同等な水準であり、コロナ禍を除けば最低の水準の月数だ。しかも、5万円が物価上昇や期待感なら実際は2.65ヶ月であり、コロナ禍を除けばダントツで最低水準だ。私たちの主張を受け止めて回答しているのか！我々の働き度が、仕事がしたくても出来なかった震災時や社員が今よりも3万8千人以上多くいた会社発足時以下だと見ているのか。

【会社】月数をどこと比べてというものではない。社員のみなさんの努力があって、増収増益が実現できた。努力を受け止めた上で、覚悟をもって今できる最大限の回答をしている。

過去最低の支給水準であり、 到底納得できる回答ではない！

【組合】会社はコロナ前には戻らないと言い、コロナ後の状態を「定常状態」と呼んでいる。「定常状態」では収入はコロナ前の9割だと述べているが、現在の収入はコロナ前の88.8%とほぼ「定常状態」だ。今回の回答2.65ヶ月が年末手当の定常状態でのベースになるのか？

【会社】議論したことを受け止めて一つの要素として回答している。期末手当は何ヶ月をベースにして考えるものではない。これまで通り様々な要素を勘案して判断するものである。

何ヶ月をベースにして

期末手当を考えるものではないことを確認！

〈年末手当の推移〉

| 年度 | 月数 |
|-----------|----------|
| 1987 | 2.80 |
| 1988 | 2.80 |
| 1989 | 2.80 |
| 1990 | 3.10 |
| 1991 | 3.20 |
| 1992~2000 | 3.15 |
| 2001 | 3.10 |
| 2002 | 3.10 |
| 2003 | 3.00 |
| 2004 | 3.00 |
| 2005 | 3.20 |
| 2006 | 3.20 |
| 2007 | 3.25 |
| 2008 | 3.22 |
| 2009 | 3.06 |
| 2010 | 3.02 |
| 2011 | 2.78 |
| 2012 | 2.96 |
| 2013 | 3.11 |
| 2014 | 3.12 |
| 2015~2019 | 3.18 |
| 2020 | 2.20 |
| 2021 | 2.00 |
| 2022 | 2.40+2万円 |

コロナ禍

このままではコロナ前に期末手当は戻らない！？

 会社は「本業を示す営業利益はコロナ前に比べ未だ約6割の水準に留まっている」と回答書に記載しています。そして「定常状態」の収入はコロナ前の9割と述べています。現在コロナ前の88.8%まで収入は回復しているので、ほぼ「定常状態」になっています。

そのような中、今回の回答ということは“コロナ前の収入に9割までしか戻らないから、コロナ前の手当水準に戻るわけがない”ということを考えているとみるべきです！たたかいなくして要求は勝ち取れません！

緊急アンケート実施！

緊急再申し入れ
で怒りの声をぶつ
けていきます！
怒りの声を
JR東労組に
結集させよう！

